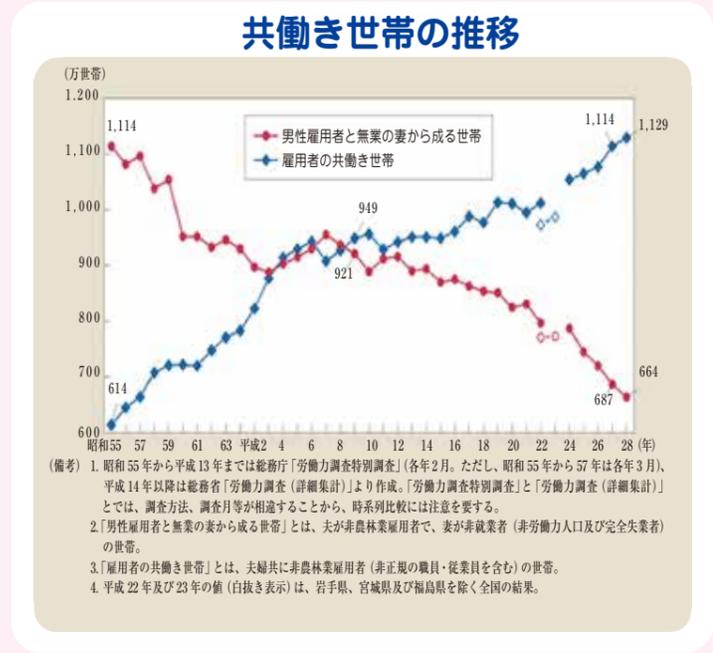


# 男は仕事？女は家事？それがフツー？ ワーク・ライフ・バランス

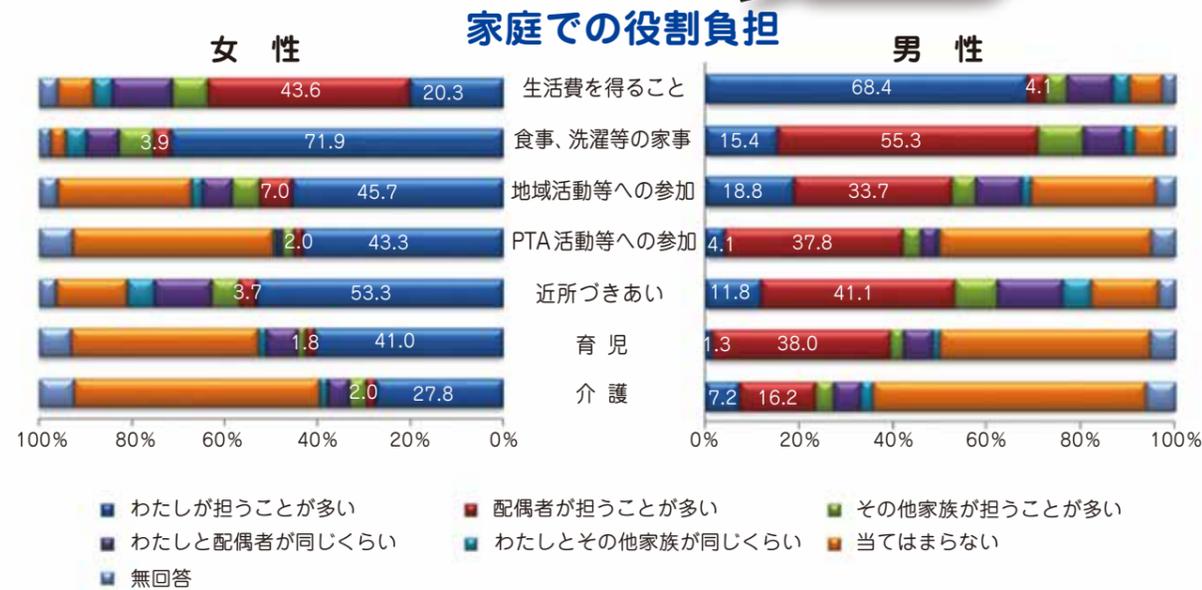
ワーク・ライフ・バランスとは・・・  
仕事と生活の調和

夫婦間の役割分担も、時代と共に変わってきています。1990年代からの経済不況などを背景にして、右のグラフのように、平成8(1996)年に共働き世帯が専業主婦世帯を抜きました。その後も共働き世帯は伸び続け、平成28(2016)年現在では、共働き世帯が専業主婦世帯の約2倍となっています。つまり今は、「性別に関わらず、外で働く時代になった」といえるでしょう。



しかし、一方で、下のグラフから分かるとおり、「生活費を得ること」は男性が、「食事、洗濯等の家事」「地域活動等への参加」などは女性が、家庭での主な役割として担っているのが現状です。そのため共働き世帯であっても、「男性は長時間労働」「女性は短時間のパートタイム家事と地域活動」など、性別によって働き方や役割が違うことが、まだまだ珍しくありません。それでも「育児」のように、男女とも関わるようになってきているものもあります。女性・男性という性別によって家庭の役割が決められる時代は、今まさに変わってきているのです。

## 現状は？



尼崎市「誰もが生きやすいまちをめざした市民意識調査報告書」(平成28年8月)より

「当たり前」「普通」の枠にとらわれずに、  
周りを見渡してみましょう。

# 外国にルーツをもつ人とのつながり

平成29(2017)年現在、尼崎市には約11,000人の外国人の方が在住しています。尼崎市の人口が約450,000人なので、外国人の方がその約2.4%を占めていることとなります。国籍別にみると、韓国・朝鮮が7,410人と最も多く、次いで中国1,553人、ベトナム736人、フィリピン327人、ブラジル149人の順になっています。日本全体の在留外国人数も年々増えており、平成28(2016)年末現在で約238万人と、過去最高になりました。



外国から日本に来る理由は様々です。日本に憧れてくる人もいれば、歴史的経緯によって、日本に住むようになった人々とその子孫もいます。現在、日本では、民族差別の解消を求める市民の声が聞かれる一方で、ヘイトスピーチなど、差別を助長する動きもあるのが現状です。

お互いの国の文化や歴史、宗教などを知ることが、このような差別を解消していく第一歩となります。

# 性のダイバーシティ

男女のカップルがフツー？



セクシュアリティ(その人自身の性のあり方)はいろいろです。性的指向や性自認に関して、レズビアン(Lesbian)・ゲイ(Gay)・バイセクシュアル(Bisexual)・トランスジェンダー(Transgender)の頭文字をとってLGBTと呼ばれることもあります。

このような人たちは5~8%、約20人に1人はいるといわれていますので、あなたの周りにもいるはずですが、日本では今も偏見や誤解によるいじめやからかい、さらには就職や結婚をはじめとした様々な社会生活において差別を受けるようなことが後を絶たないため、周りの人たちにカミングアウトする(打ち明ける)のがまだまだ難しいのが現状です。

- ★ レズビアン・・・性自認が女性で、恋愛対象が女性の人
- ★ ゲイ・・・性自認が男性で、恋愛対象が男性の人
- ★ バイセクシュアル・・・男女どちらもが恋愛対象になる人
- ★ トランスジェンダー・・・生まれた時の性別と自分で認識している性別が異なる人や身体の性別に違和感を持つ人
- ★ Xジェンダー・・・女性・男性のいずれでもないという性別の立場をとる人



※異性愛も含めた多様な性的指向(恋愛・性愛がどういった対象に向かうのか)・性自認(自分の性をどのように認識しているのか)を指してSOGIと呼ぼうという動きも出てきています。